

皆さんのお買い物

東日本大震災から14年

東日本大震災から14年。被災した地域や学校の再生はなお途上にあり、原発事故の影響が今だに深刻な福島県をはじめ、岩手、宮城両県を合わせた3県の被災校は息の長い支援を求めています。

ベルマーク財団は震災直後、3県と茨城県にノート、鉛筆、クレヨンなど計800万円相当の緊急支援を実施しました。その後も2024年度までの14年間で、被災地支援プロジェクトとして3県を中心に延べ2474校に対し、総額5億円超の支援をしてきました。

各校が必要とする設備品や教材を贈呈したほか、児童・生徒がクラブ活動や校外学習などの際に使うバス代の直接援助にも取り組んでいます。

2025年度もプロジェクトは継続します。これまでと同じように岩手、宮城、福島3県の小中学校長会と連携し、積極的に支援を続けます。

ベルマーク運動参加校・団体のお買いものを通して生まれる通常の支援資金や寄付、寄贈マークなどに加え、「ウェブベルマーク」からの助成金も活用します。



狭い場所でも
みんなで仲良く一輪車の練習。
岩手県宮古市立重茂小学校



デジタル教科書で楽しく勉強。
宮城県気仙沼市立鹿折小学校



仮設校舎の教室でも、
生徒たちはいきいきしていました。
岩手県陸前高田市立気仙中学校

が支援金を生みます

学校外での活動にも支援

学校外の支援として行っていた東日本大震災に伴う「寺子屋」事業は2019年度で5年間の支援計画を終えました。その中で、宮城教育大の「防災教育研修機構」は、事故の教訓を学校現場で活かし、学校の防災力を高めるための教師の研修等に力点を置いた活動にモデルチェンジしました。この災害に強い学校づくりをめざす宮城教育大の事業と、福島と熊本・水俣の中学生交流事業への支援は継続しています。



宮城教育大

被災校から感謝のメッセージ

東日本大震災の後、2016年に熊本地震、2017年に九州北部豪雨、2018年に西日本豪雨、北海道胆振東部地震、2019年に台風・大雨被害、2024年には能登半島地震と災害が相次いで起こりました。ベルマーク財団では、東日本大震災の場合と同じように、新たな災害で被災した学校にも支援事業を実施しています。

対象の学校や子どもたちからは、支援に感謝するメッセージが届いています。



阿蘇市立一の宮中学校



福島県大熊町立大熊中学校



安平町立早来中学校